

1 学校として目指す授業

子供が自ら学ぶことのできる授業 「考える授業」から「学ばせる学習」へ

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>国語では、全領域で東京都平均と全国平均を上回っている。特に課題となった区分が「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「短答式」であった。漢字を正確に読み書きする力を伸ばす必要がある。</p> <p>算数では、全領域で東京都平均と全国平均を上回っている。一方で、課題となった区分は「C変化と関係」であった。比例関係について考察する力を伸ばす必要がある。</p>	<p>質問紙調査においては、以下のような課題が考えられる。まず、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めているか。」という質問に対し、肯定的な回答をした児童が全国平均や東京都平均を5ポイント以上下回っていた。そして、「授業で学んだことを次の学習や実生活に生かしているか。」という質問に対し、肯定的な回答をした児童が全国平均や東京都平均を10ポイント以上下回っていた。このことから、話し合い活動の充実や実生活と授業の往還をしていくことが重要であると考えられる。</p>

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・主要教科についての理解度は、肯定的な意見が85%以上となっている。しかし、得意不得意の意識の程度は理解度に比べて低くなっている。そのため、児童が学習に取り組む際、「周りの人の役に立つ」「自分の将来に役立つ」等の内発的動機付けとなるような働きかけをすすめることで、学習意欲を高めることを目指す。

・学習の進め方は、粘り強く取り組む態度に関する項目の肯定的な意見が75%と低い傾向にある。また、他者と関わりながら課題を解決する項目は肯定的な意見が多い傾向があるので、個別最適な学びを充実させ協働的な学びの一体化を図り、粘り強く取り組む態度を養う指導方法の工夫が必要である。

・学習習慣は、家庭学習、塾等の時間が30分～1時間未満が多い現状にある。学校での授業の充実とともに、家庭学習と学校での学習をつなげる工夫が必要である。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語、算数共に市平均、全国平均を下回っている。

・国語の正答率では、本校57.2%に対し、全国62.1%と全国とは-4.9ポイントとなっている。これらの結果より上位層が少なく下位層の割合が多く、選択式等の基礎問題はある程度できるものの、記述式名の問題ができない割合が多くなっている。

・算数においても正答率では、本校54.7%に対し、全国61.8%と全国とは-7.2ポイントとなっている。やはり上位層が少なく下位層の割合が多く、基礎はある程度できるものの、応用についてはがどの層の児童もできない割合が多くなっている。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
<p>・東京都統一体力テストでは、主に「瞬発力」や「運動のタイミングをとる調整能力（巧緻性）」「粘り強く続けていく持久力」に課題がある。</p>

3 児童の学力・学習状況等の課題

・基礎基本が定着していない児童が多いため、東京ベーシックドリルの復習や家庭学習の啓発を促す必要がある。

・相手の話の要点を理解して話を聞くことが苦手な児童が多いため、視覚的な支援も取り入れながら言語活動の充実を図る必要がある。

・以上の課題を踏まえ、ユニバーサルデザインを念頭にいた授業展開と振り返りの充実を重点的に取り入れた授業展開を工夫する。

**【授業改善推進プランの活用法】**

①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導にお生かす。

4 学校全体の授業改善の視点

・朝学習の時間等を活用し、基礎的、基本的な学習内容を反復して取り組ませることで基礎・基本の定着を図る。

・個別最適な学びと協働的な学び(言語活動を重点)の一体的な充実を図り、粘り強く取り組む態度を養う指導方法を工夫する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価		
低学年	・毎時間授業の初めに音読する時間を設けるとともに、ペアで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・自分の考えをもつ時間や機会を十分に設ける。				・数量について、具体物や半具体物を使った数学的活動を取り入れながら、自力解決に繋がるようにする。 ・ペアやグループで自分の考えを伝える活動を取り入れる。				・活動や観察で気付いたことを発表する場を設定する。 ・観察カードにまとめる観点を示し、それを基に自分の考えをまとめる ・観察の視点を全体で確認することで、視点をもって観察し、言葉で表現できるようにする。		・曲に合わせた簡単なリズム体操を踊りながら階名に親しむ。 ・簡単なリズムや、ゆとりとしたリズムなどからスモールステップで取り組ませる。						・遊び方の工夫や、運動の行い方についての考えを伝え合う時間を確保する。 ・1単位時間の中で、多様な運動遊びを取り入れ、互に見合う時間を設け、価値付けすることで、友達の良い動きを知ることができるようにする。					・範読や場面絵を基に、自分の考えをもちながら聞く。 ・自分の考えをワークシートに書く時間を取り、ペアで意見交換をし、クラス全体で考えを共有する。		
中学年	・ペア、小グループで自分の考えを発表したり、交流したりする場を多く取り入れる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えられるように、基礎的な力を反復練習などで身に付けられるようにする。		・児童が「なぜだろう」「調べてみたい」と思うような資料を提示し、児童主体で調べ学習をすすめられるようにする。		・基本的な計算を繰り返し取り組ませる。 ・ペアやグループで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・プロジェクトや表、図などを活用し、視覚的に支援を取り入れる。		・ペア、小グループで考えを発表したり、交流したりする機会を意図的に設定する。 ・実験・観察等の条件を整理して、考察できるように指導する。				・音楽を形作っている要素や、曲想を表す言葉を提示物から選択し、それらに関連付けて音楽を言葉で表したり友達に伝え合ったりする時間を設ける。 ・歌唱では、伸びのある歌声を出すために必要な発声法や正しい歌い姿勢を身に付けさせる。						・友達作品を見て、よいところや面白いところを互いに伝え合う。 ・活動の予定を示し、見通しをもたせてから取り組ませる。					・チームで話し合う時間を設けることで、協力して学び合いの機会をたくさん取り入れた活動ができるようにする。		
高学年	・読み物教材の授業や朝学習で音読・精読する時間を確保する。 ・自分の考えと相手の考えを比較検討する活動を設定する。 ・ベーシックドリルや小テストを行い、漢字の読み書きの習熟を図る。		・視覚的な資料から情報を読み取り、自分の考えをもてるように、比較する学習や人物の思いや願いを考える学習を繰り返す。 ・単元の見直しをもてるように、単元の導入で計画を児童と立てるようにする。		・既習事項を踏まえながら、ICTを活用して、思考する時間を確保する。 ・関数に関する指導（意味理解）を重点化した指導を行う。 ・自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたことで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		・児童の体験的な活動を重視し経験と知識を結び付ける授業展開を工夫する。 ・実験方法や結果からの考察を児童同士で話し合い解決する時間を確保する。				・鑑賞では、思考ツールや図形言語、曲想を表す言葉を用いて音楽を言葉で表現したりよさを伝え合ったりする時間を確保する。 ・強弱、フレーズの意識、発声法など、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けさせる。					・調理実習や裁縫の実習を多く取り入れ、経験を繰り返し積むことで、実践力を高め、普段の生活でも学習したことを活用する力を身に付けさせる。 ・視覚的な情報から、学習内容を理解できるようにする。					・ペアでのやり取りの時間を確保することで児童が自分の考えを伝える力を向上させられるようにする。		個人で考える時間と集団で考える時間のメリハリを付け、多様な考えに触れて認め合う活動を増やす。ワークシートやアプリを工夫して、児童が取り組みやすいような場の設定を行う。	